

# 今、何の病気が流行しているか！

## 【感染症発生動向調査事業から】

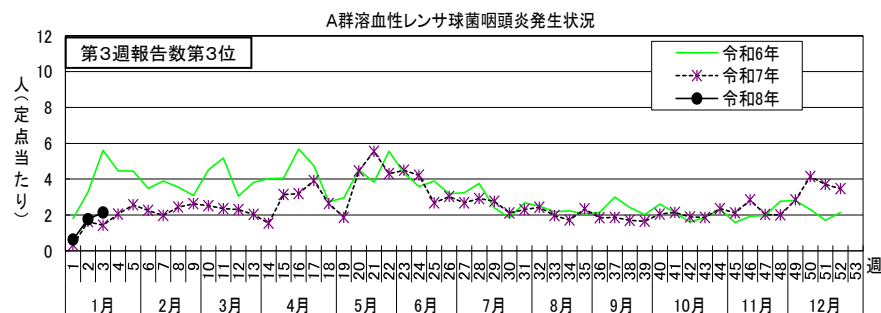
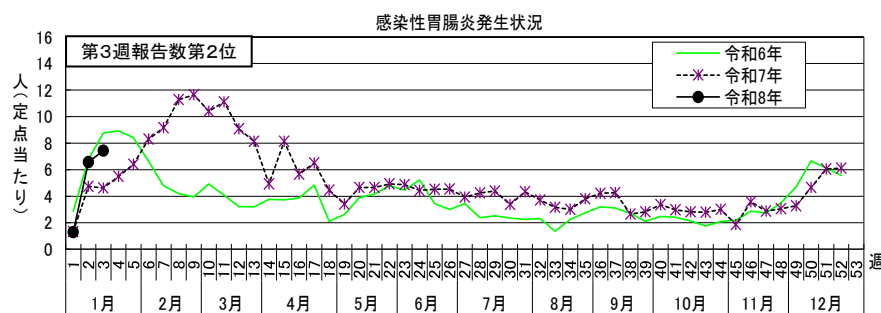
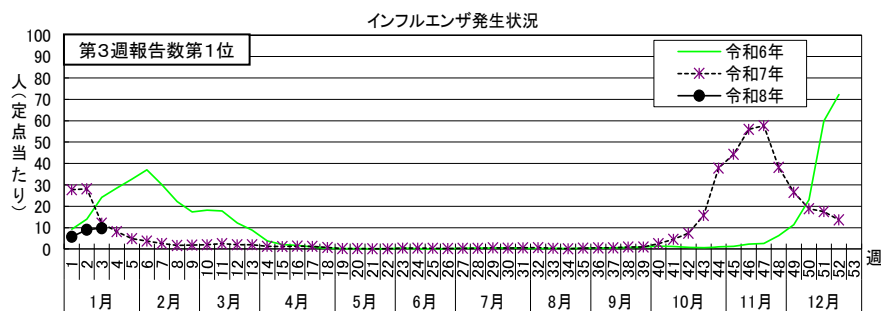
令和8年1月12日（月）～令和8年1月18日（日）〔令和8年第3週〕の感染症発生状況

第3週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）感染性胃腸炎 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

インフルエンザの定点当たり患者報告数は9.77人と前週（9.03人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は7.43人と前週（6.57人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.14人と前週（1.76人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

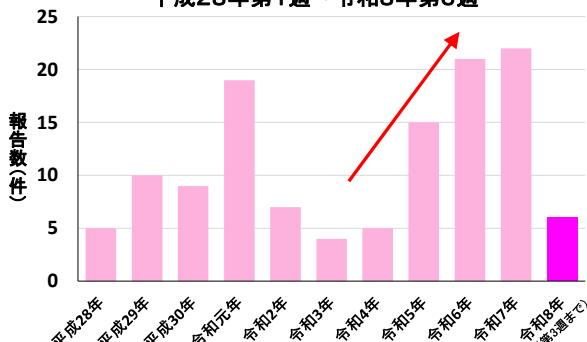


## こんな病気にも気を付けて！～劇症型溶血性レンサ球菌感染症～

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、溶血性レンサ球菌を原因とする細菌感染症です。川崎市における報告数は近年増加傾向にあり、令和7年は22件と過去10年間で最多となりました。令和8年も年始から報告が相次ぎ、第3週（1月12日～1月18日）までに既に計6件の報告がありました。

溶血性レンサ球菌自体は一般的にみられる細菌ですが、劇症型の場合は、四肢の痛みや腫れ、発熱等の症状が突然出現した後、急速に悪化して、発症から数日で死亡することもあります。重症化のリスクを下げるためには、発症早期から抗菌薬治療を行うことが重要です。発熱とともに四肢の痛みや腫れ等がみられた場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

川崎市における劇症型溶血性レンサ球菌感染症の発生状況  
—平成28年第1週～令和8年第3週—



### 劇症型溶血性レンサ球菌感染症とは？

#### 【病原体】

溶血性レンサ球菌

#### 【感染経路】

創傷感染、飛沫・飛沫核感染、接触感染等

#### 【主な症状】

##### ●初期症状

四肢の痛み・腫れ、発熱、血圧低下等

##### ●進行とともに出現する重篤な症状

軟部組織壊死（皮下組織細胞の壊死）、急性腎不全、多臓器不全、ショック等

#### 【致命率】

30%～40%

**早期発見・早期治療が重要です！**

